

♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポッキリ、ポッキリと

28年 5月 NO. 258

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		5月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
5月 7日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	絵本とオリジナル動くペープサートを 作ります。(予約要5/6まで)	
5月 14日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って あそびましょう。	
5月 18日	水	おはなしの会 10:00～11:30	〈春のおでかけ〉をテーマに大型絵本やマジック、 わらべ唄などあります。どうぞおいで下さい。	
5月 22日	日	香川みすゞさんの会 13:00～15:30	「金澤泰子さん、翔子さんの席上揮毫(きごう)と トークショー」に参加します。 ご希望の方は、5/15までに087(821)5241 堀まで申し込み下さい。	
5月 27日	金	健康育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)	
5月 28日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。	

・火～土の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集3
「空のかあさま・上」より

お花だったたら
もし私がお花なら、
とてもいい子になれるだる。
ものが言えなきや、あるけなきや、
なんでおいたをするものか。
だだけど、誰かがやって来て、
いやな花だといったなら、
すぐに怒ってしばむだる。
もしもお花になったって、
やっぱいい子になれまいな、
お花のようにはなれまいな。



今月は香川県内全小学校4年生の血液検査について、異常発見の大切さを提言している北川博敏氏の文を紹介します。

✕ 全国の小学校で血液検査を ✕

北川博敏（香川短期大学名誉学長）

血液検査による健康診断といえ、成人が主な対象という印象があるかもしれない。

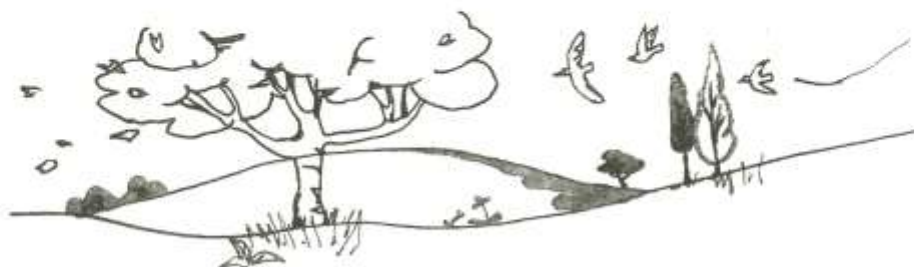
香川県は4年前から、県内全小学校の4年生を対象に血液検査を実施している。これまでに受診した2万2914人のうち12.6%が肝機能異常、11.1%が脂質代謝異常、10.6%が血糖値異常であった。深刻である。

もともと、この検査は、松原病院（香川県三木町）の松原奎一院長が、診察に来る子どもの血液に異常が多いのに気づき、校医だった中学校の生徒に1987年から自費で始めたものだ。これを知った私は他の市町に広める努力をし、浜田恵造県知事の判断で2012年から全県で実施されている。

肝機能異常は一般には中高年の男性に多いが、近年は非アルコール性肝炎が増えており、子どもたちにもその症状が出ている。肝機能が異常だと勉強や運動に支障を来すおそれもある。すでに脂肪肝になっている生徒もいて、将来は肝硬変や肝臓がんに進む可能性もある。

脂質異常は、ただちに学校生活に影響しないかもしれないが、20～30年後に脳卒中や心筋梗塞のリスクが高くなるおそれがある。

血糖値異常は、糖尿病の予備軍。このままだと20～30年後に深刻な糖尿病に進む可能性が高い。糖尿病はすべての老化を加速し、認知症の発症を促す。アルツハイマー病は脳の糖尿病とも呼ばれている。世界保健機構（WHO）は糖尿病を、人類を滅ぼす病気に指定している。



子どもの血液異常は香川だけの話ではない。日本学校保健会の調査によると、全国の小・中・高校生約1万2000人の約23%が総コレステロールの異常域か境界域であった。

また、千葉、富山、鹿児島の高中生約1300人を対象に3年間、中性脂肪やコレステロール、空腹時血糖、血圧などを調査したところ、約4割が生活習慣病か予備軍であった。思春期にこれほど生活習慣病やその予備軍が多いとは驚きだ。その背景として考えられるのは①飽食②高脂肪食や甘いドリンク、塩の取り過ぎ③野菜・果物・大豆食品の摂取不足などだ。

香川県の調査では、血液異常の多い子どもには①運動が少ない②朝食を抜く③不規則な食事④早食い⑤腹いっぱい食べる⑥ゲームの時間が長い⑦寝るのが遅く、睡眠時間が短いなどの行動が共通しているという。この問題に早くから取り組んでいる高松市教育委員会は、異常が見つかった生徒の保護者を学校に呼んで警告し、生活習慣、とくに食生活の改善を指導している。3カ月後に再度、血液検査を受けさせ、診断書のコピーを提出するように要請しているが、4割程度は正常値になっていると聞く。生徒だけでなく、一家の食生活が改善されたと思われる。

2年前、国会で安倍晋三首相は香川県の取り組みを高く評価し、全国への拡大を検討すると答弁した。だが、その後、全国に広がる気配はない。将来の医療・介護費を減少させるためにも、全国の小学校で血液検査が実施されることを切望する。

『毎日新聞』(H28.4.5)

*北川 博敏 (きたがわ ひろとし)

香川大学農学部教授、香川短大学長を経て香川県食育推進会議会長。

専門は食育。



岡山県の東部、瀬戸内海に浮かぶ島に「長島」がある。ここには^{おく}邑久光明園と長島愛生園という二つのハンセン病療養所がある。かつての国の強制隔離政策でここに収容された人々が、今でもひっそりと生活を続けている。

彼らの大部分は、ハンセン病自体は完治しているものの、後遺症による障害を抱えており、社会復帰が難しい状況にある。

私が長島で会った人の中に、手先の感覚が^{まひ}麻痺した上、視力を失った人たちがいた。彼らは目で字を読むことができず、さらに、手先の感覚が利かないため、指で点字を読むこともできない。

しかし、その中の何人かは、キリスト教の教えと出会い、どうしても聖書を読みたいという思いから、ある方法で点字の聖書を読もうとした。それは、舌先で点字を読み取るという過酷な方法だった。

はじめは舌がヒリヒリし、唇から血が流れ出たそうである。点字の用紙を^な舐めている姿を想像し、惨めになって泣いたこともあったという。

それでも、彼らはあきらめず地道な努力を続け、^{つい}遂には点字の舌読に成功し、聖書をはじめとする多くの点字書物を読むことができるようになった。その時の^{よろこ}喜びは、計り知れないほど大きなものだったと言う。彼らは今でも点字の聖書を舐め、キリスト者として穏やかや毎日を過ごしている。

彼らの中の一人が、私に語ったことばが印象的だった。

「目が見えへんようになって見えるようになったものも、たくさんあるんですよ」

この話をインドのハンセン病患者にしたところ、彼らは涙を流しながら口々に「勇気をもらった」と言った。

日本の元ハンセン病患者の体験が、インドのハンセン病患者の心を支える。世界が^{つな}繋がっていることを実感し、私も泣いた。